特派員決死撮影

支那事變寫眞帖

讀賣新聞社

今次支那事變の勃發と共に、皇軍一度起つや正に神業、忽ち北、中、南支に涉る敵抗日據點を擊破覆滅して戰火嚇々、遂に抗日國民政權に代る明朗新興政權の自然發生を見るに至りたるが、其の間僅に半歲、東亞の歷史を回轉せしめた此の偉業の蔭に忠勇武烈なる我が皇軍將兵が生死一如、猛暑酷寒に身を曝しつゝ、天嶮を越え、泥濘を踏み、又荒天の海空に挑んで屈せず、或は十字砲火を潜りて肉彈以て堅壘鐵塞を突破せる勞苦辛酸と其の崇高なる盡忠報國の皇軍精神とは、粛然、襟を正さしむるものがある。

事變發生するや、我が社は直ちに全通信機構の擴大强化を圖ると共に現地報道の中樞たる北支並びに南支に特派員を派遣すること前後八十餘名、之に十五名の出先支局員を合流協力せしめて、皇軍力鬪奮戰の戰況報道に完璧を期した。然も、我が社特派員は常に彈丸雨飛の第一線に從軍、敢然身を挺して塹壕戰に、渡河戰に、市街戰に、山岳戰に、攻擊戰に、はた又敵前上陸戰に或は空中戰に、有りと凡ゆる猛攻激鬪の戰火中に投じたのである。盡忠皇軍の征く處「一死報國」あれば、我には「一死報道」の勇猛心があるのである。故あるかな、斯くて我が社特派員陣の勇猛決死の活躍は第一線に死鬪する皇軍各部隊を驚嘆せしめ、**「最前線に出るのは何時も讀賣の記者許りだ」との折紙を付けさせ、又銃後に於ては「讀賣に依つて初めて實戰の眞況が分る」と定評を博する**に至つた。

此の間に於て、不幸、我が社渡邊記者、吉島聯絡員の兩名は敵彈道下の第一線に壯烈なる戰死を遂げて報道戰線の華と散り、更に三特派員、一連絡員の四名又敵彈を受けて負傷したる等、之等尊き犧牲こそ、とりもなほさず我が無敵特派員の第一線に於ける華々しき活躍を雄辯に物語るものでなくて何であらう。

本寫眞帖は、實に、我が社特派員が斯る旺盛なる報道精神のもと、勇躍死線を突破して撮影したる精粹の結晶にして、收むる處四十八葉、何れも砲煙天地を罩めて凄絕無比、全く無敵皇軍の眞面目を傳へて餘す處なきものである。**本輯こそ絕對他に其の比を見ざる戰爭寫眞の決定版として永く後世に傳はるべき聖戰記念の逸品**と信じ、玆に改めて淸鑒を仰ぐ次第である。

昭和十三年五月

讀賣新聞社

世界戰史を飾る上海軍工路敵前上陸（其ノ一）

上海軍工路の敵前上陸戰は今事變最大の激戰の一つとして數へられてゐるが、同時にまた世界戰史を飾る壯烈な戰ひであつた。八月下旬軍工路の一角に敵前上陸を敢行した鷹森部隊金田隊は、上陸を終るや否や直ちに軍工路前面の部落に據る頑敵の殲滅を期して、まづ部落に火を放つべく決死隊が募られた。決死隊はたちどころに組織されて、友軍の掩護射撃の下に部落を目がけて突入したが敵もまた頑強に防戰、ためにわが軍も幾度か苦戰に陥りつゝも決死隊は更に第二、第三と組織されて、さしもの頑敵も遂に部落を放棄、こゝにわが軍は輝かしき敵前上陸に成功した。

（一）燒打ち成功に相擁して感激する決死隊の兵隊。

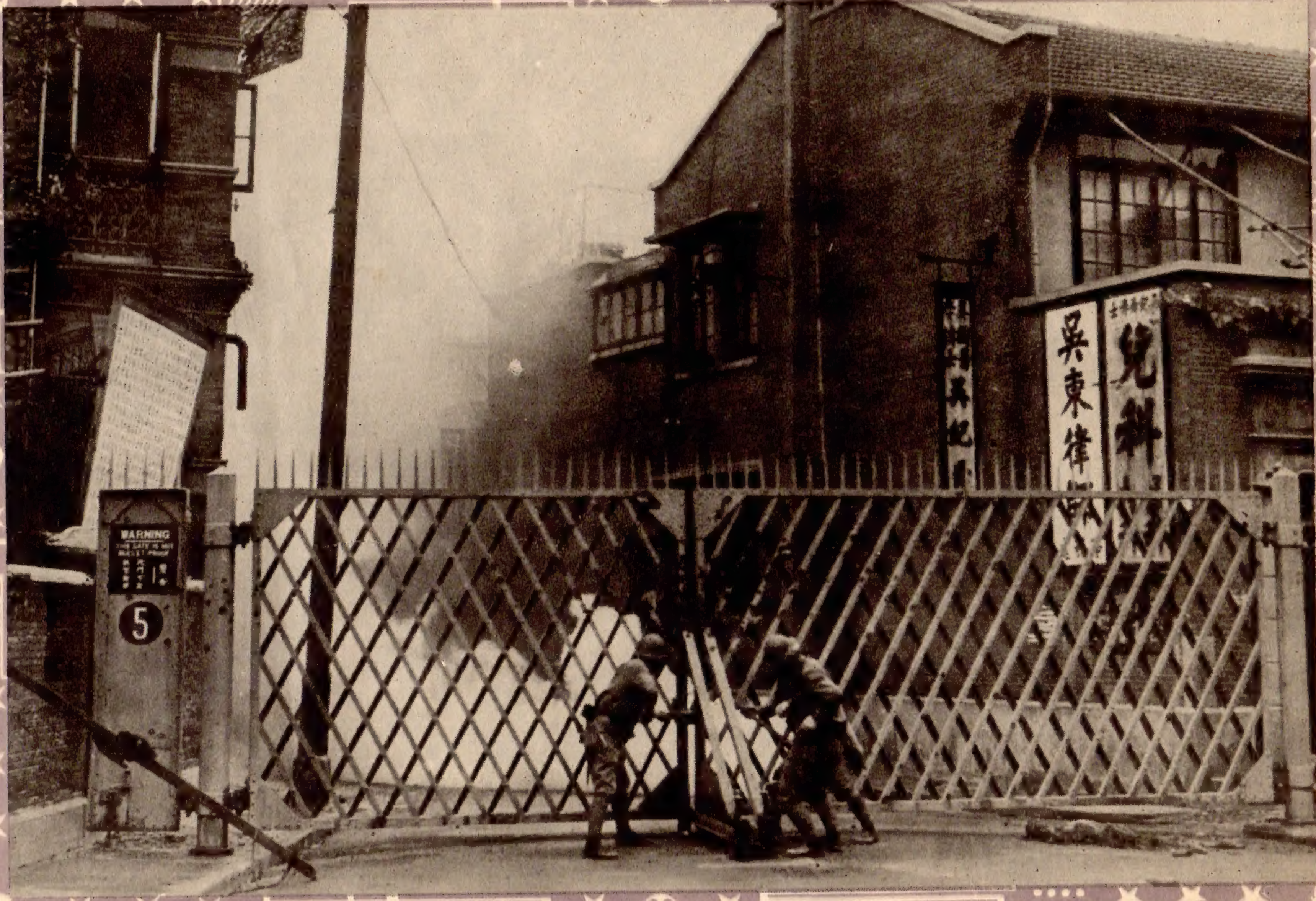
世界戰史を飾る上海軍工路敵前上陸（其ノ二）

（二）敵陣焼打ちに成功した決死隊員が三々五々、互に戰友をいたわりつゝ引揚げるところ。

世界戰史を飾る上海軍工路敵前上陸（其ノ三）

（三）兩眼に傷を受けた決死隊の田代一等兵に氷砂糖を與へて、「シツカリしろ」といたわる長谷川部隊長。

閘北市街戰・陸戰隊決死の鐵門破壞（其ノ一）



上海戰の火蓋が切られて以來、わが海軍陸戰隊は寡兵よく敵大軍を押へて多大の戰果を收めたが、敵もまたよく戰ひ、殊に閘北に據る頑敵との市街戰は壯烈を極めた。この間わが社眞柄特派員は數度にわたり、わが陸戰隊の戰車に同乘を許されて敵前數十米に近接、第一線に活躍する決死陸戰隊員の勇猛果敢な力戰奮鬪ぶりをカメラに收めた。

（一）ハスケル路敵前數十米、突擊路を作らんとして鐵門破壞作業中の決死隊員。

閘北市街戰・陸戰隊決死の鐵門破壞（其ノ二）

（二）民家の窓に據つて敵を狙撃、一歩また一歩敵陣に肉迫する陸戰隊員の奮戰ぶり。

弾雨を衝いて奮迅・頑敵據る民家を焼打（其ノ一）

上海十字橋の要所を死守する陸戦隊太田部隊は、對岸の民家に據つて頑强に反撃し來れる敵を粉砕すべく村上三曹、屋根内三曹、杉林・田兩一等水兵に決死隊として焼打ち敢行を命じた。四勇士は命令を待つのももどかしく飛鳥の如く弾雨を縫つて民家に突進、石油に火を放つて無事使命を果した。

（一）藥に石油をブツかけて點火、燃え上るのを見極めたうへ飛鳥の如く引揚げる決死隊員。

弾雨を衝いて奮迅・頑敵據る民家を焼打（其ノ二）

（二）濛々たる黒煙、焼打ち成功、期せずして萬歳の聲はわが塹壕に湧き起つた。

壁一重・頑敵と對峙・不氣味な上海市街戰（其ノ一）

道一筋、壁一重を境にして頑敵と對峙する上海市街戰――事變勃發の當初寡兵よく雲霞の如き敵大軍を支へてわが租界を死守した陸戰隊の奮戰力闘は別として、後半敵がわが陸海空三位一體の猛攻を月餘にわたつて支へ得たのは實に市街戰なればこそであつてこゝに市街戰が彼我堂々の陣を張つて相戰ふ野戰と著しく趣を異にすると同時に攻守とも幾多の新兵器、新戰術を生んだ所以があるのである。寫眞は眞柄特派員決死の撮影にかゝる上海市街戰の特異な場面。

壁一重頑敵と對峙・不氣味な上海市街戰（其ノ二）

（一）狹隘な上海裏街の支那人街――道路上に築かれたバリケードに僅かに身を屈し、民家に據つて頑強に抵抗する敵陣を掃射する陸戰隊の活躍。（對頁）

（二）民家の壁を打ち拔いて敵陣に肉迫する決死陸戰隊の奮戰振り。

壁一重頑敵と對峙・不氣味な上海市街戰（其ノ三）

（三）全身の神經を耳に壁一重敵と對峙する市街戰の不氣味な一場面。

友軍の血に染む呉淞クリーク渡河戰（其ノ一）

わが戰史上燦として輝く呉淞クリークの敵前渡河戰、これは今事變最大の激戰の一つとして今なほ記憶に新たなるところ。わが社藤澤特派員は兵とともに絶えず第一線に活躍、カメラを驅使して皇軍の光輝ある戰史の一コマを記錄した。（一）頭上に飛ぶ敵機銃の雨を塹壕に避けつゝ黙々として河岸に肉迫するわが兵。

友軍の血に染む呉淞クリーク渡河戰（其ノ二）

（一）突撃！　命令一下、忠勇なわが兵は脱兎の如く塹壕を飛び出して猛進。

友軍の血に染む呉淞クリーク渡河戰（其ノ三）

（三）見よ！　對岸に一番乘りした加納部隊卯野隊の勇士の壯絶な姿を。敵彈に傷つける身を軍刀に托しつゝも屈せず、部下を指揮する壯烈な卯野隊長の最後の姿を。（右端）傷つける戰友をいたはりつゝ堤にピタリと身を沈めて、今や遲しと突擊の命令を待つ勇士達の姿を。

戰友の屍を越えて劉家行クリーク突破（其ノ一）

劉家行前面のクリーク敵前渡河は呉淞、蘇州両河の敵前渡河と共に最も壮絶を極めたものであつた。クリークの前には強固なトーチカと鐵條網がめぐらされて、銃眼にひそむ機銃は塹壕内のわが兵を釘付にしたかの如く見えたが、忠烈果敢なわが藤田部隊は不撓不屈、遂にこの堅陣を抜いて、さしもの強敵を潰走せしめた。この激戦に従軍したわが藤澤特派員は終始第一線にあつて、一番

戰友の屍を越へて劉家行クリーク突破（其ノ二）

（二）クリーク對岸のトーチカから雨と降りそゝぐ機銃弾をくぐつて對岸に一番乗りした決死の十九勇士、だがこの十九勇士渡河成功後折からの干潮に切角架けた假橋を押流され、對岸の勇士は後方の連絡を斷たれて一時は全滅の危機にさへ頻した。

戰友の屍を越へて劉家行クリーク突破（其ノ三）

（三）前の寫眞撮影數時間後、潮のおさまるのを待つて再度架橋作業が行はれ、新鋭部隊の渡河によつて忽ち前面の鐵條網を切斷突撃また突撃、トーチカによる頑敵を撃退した。寫眞は鐵條網を切斷して突撃路をつくつてゐるところ。

戰友の屍を越へて劉家行クリーク突破（其ノ四）

（四）戰友の屍を越へて敵トーチカに突撃せんとするわが兵。（寫眞 二 對岸の日の丸の旗のあるところと同地點）

決死閘北敵陣突破・敵前血染めの寫眞（其ノ一）

閘北商務印書館附近は俗にポケット地帶といはれて、攻むるに難く、守るに易い敵の巣窟として上海戰開始以來久しくわが勇猛果敢な陸戰隊の攻撃を阻んでゐた。陸戰隊大西部隊はまづこの頑敵の敵陣を偵察すべく佐々木一等水兵以下四名の決死斥候をして敵陣深く偵察を命じた。待つこと數刻、他の三名は偵察任務を果して歸還したが、佐々木一等水兵のみはいつまでたつても歸らない。部下を愛すること子供の如き大西部隊長は自ら第一線に出て捜索するうち、「ゐたツ〱」敵前十餘米、草原の窪地にうごめく佐々木の姿。「佐々木を救へ」と神保小隊長以下五名の決死救護隊は直ちに組織されて、發煙筒掩護の下に一戰友に對する悲愴な

決死閘北敵陣突破・敵前血染めの寫眞（其ノ二）

救援の手が延べられたのであつた。この間わが宮川特派員は敵前三〇米近くにまで近接、敵陣に對峙する廢墟の銃眼から決死救援隊活躍の有樣を逐一カメラに收めたが、救援隊を見て狂鬼の如く撃ち出した敵機銃彈は側にゐて敵陣看視中の小泉一等水兵を傷つけ、その返り血はカメラを血ぬらし、また同行の古田特派員は敵迫撃砲彈を身邊に受けて煉瓦に埋もるなど、この寫眞は部隊長さへ驚く果敢なわがカメラ從軍によつて撮影されたものである。寫眞（一）は發煙筒を投付けてゐる決死隊員。（對頁）

（二）救援に向ふ決死隊員。

決死閘北敵陣突破・敵前血染めの寫眞（其ノ三）

（三）敵機銃彈を受けて傷ける決死戰友を救出してゐる所。手前にかゞめるは本社古田特派員。

軍刀一閃血煙り立つ・壮烈！馬橋宅の肉弾戦（其ノ一）

馬橋宅は大場鎮前の要地、この一角こそは敵が力と頼む堅陣である。わが石井部隊は十月廿五日早曉を期して突如、壮烈無比な攻撃を開始、突撃に次ぐ突撃をもつて遂にこの堅壘を抜いたが、わが藤澤特派員は急霰の如き敵機銃弾と身邊に炸裂する迫撃砲弾、手榴弾のなかを縫ひつゝ突撃隊と共に敵塹壕に突入、最後の抵抗を試みんとする敵兵との間に展開された壮烈な肉弾戦をカメラに収めた。この寫眞こそ未だ曾て見ざる驚異的事變寫眞であらう。（一）**敵塹壕目がけて突撃する石井部隊。**

軍刀一閃血煙り立つ・壮烈！馬橋宅の肉彈戦（其ノ二）

（二）壮絶！肉彈塹壕戦、壕奥にひそむ敵兵を突刺さんとするもの、銃を揮ふもの、勇敢な藤澤特派員によつてはじめて寫された皇軍兵士の目覺ましい奮戦ぶりだ。

軍刀一閃血煙り立つ・壮烈！馬橋宅の肉弾戦（其ノ三）

（三）見事！軍刀一閃、血煙たつ敵兵最後の姿、この寫眞撮影について、藤澤特派員は語つてゐる。

「突撃隊に從つて敵塹壕上に飛び込んだ刹那、何を思ひ違へたか、一兵士が突如僕を目がけて、手榴彈を投げつけた。僕は突嗟に〃味方だ〃と叫んで横ッ飛びに身をかわした。とその兵は〃後の者もか〃と叫んだので、僕はハッと思つて振返れば二間と離れない壕の中で一人の敵兵、僕は〃違ふ／＼敵だ／＼、斬つてくれ〃と叫んだ。兵は疾風の如く敵兵に飛びかゝつた。僕は無意識にカメラのシヤツターを切つた。軍刀一閃、血煙りたつて敵兵の斷末魔の姿、戰慄の一瞬、今思ひ出してもゾッとする」

大場鎭空爆・わが荒鷲部隊の活躍（其ノ一）

わが荒鷲部隊の大場鎭空爆、壯絶なるこの空爆行に特に同乘を許された宮川特派員は、敵高射砲彈炸裂する大場鎭上空から堅陣を誇る敵陣營爆破の模樣を撮影する機會を得た。

（一）敵陣目がけてまさに爆彈が機體を離れた刹那。

大場鎮空爆・わが荒鷲部隊の活躍（其ノ二）

（二）見事命中！黒煙濛々堅塁を誇る敵陣はコッパ微塵だ。

人柱の假橋を渡つて敵陣へ

この寫眞を見て誰か堅忍不拔なわが兵を稱へないものがあらうか。トーチカを頼みに機銃火を吐く敵前、全裸の體をクリークの水にひたして橋柱がわりに假橋を背負ふ工兵の苦心、一人渡る度に一寸、二寸と底無しの泥沼にもぐつてゆく。橋を渡つて敵陣へ突入する歩兵の勇猛さもさることながら、敵彈雨飛下、全裸のまゝ橋柱となつて友軍の渡河を援ける工兵の苦心はまた壯烈の極みであらう。佐々木特派員決死撮影にかゝるもの。

ひかれゆく捕虜

鬼畜の如き督戰隊に脅やかされつゝ第一線に狩り出された支那兵は退くも死、進むも死、最初のうちこそ頑強に抵抗を試みてゐたが、勇猛果敢なうちにもわが兵の情味の深いことを知つてか、戰局の進むにつれて續々投降兵を見るに至つた。寫眞は十二坊無電臺附近でわが兵に捕へられた捕虜。

上海市街戰の華・決死白襷隊の突撃（其ノ一）

壁一重を隔てゝ敵陣と相對峙する閘北の市街戰、この市街戰における陸戰隊の活躍こそは永久にわが戰史を飾るものであらう。わけても白襷隊の力戰ぶりは上海市街戰の華、わが宮川特派員は終始決死隊と行動を共にして、廢墟となつた閘北戰線における隊員決死の活動を撮影した。

上海市街戰の華・決死白襷隊の突撃（其ノ二）

（一）廢墟と化した北停車場附近の民家の壁を縫つてジリジリと敵陣に肉迫する決死白襷隊員（對頁）

（二）隊員とともに敵前數十米近くまで進んで、決死隊の壯烈なる奮戰ぶりをカメラに收めつゝあるる宮川特派員。かくてこそわが社の記事及び寫眞は燦として紙上に輝き、他紙を壓倒することが出來たのだ。

悲壯！秋雨衝いて蘇州河の敵前渡河（其ノ一）

皇軍破竹の猛進によつて江南の戰野は上海を樞軸として西北より西南へグルリと大展開、十月廿七日閘北及び眞茹を完全に占據したわが軍は京滬鐵道を一氣に越え怒濤の如く蘇州河めざして殺到、廿八日朝來對岸の敵と大激戰を交へてゐたが、遂に同月卅一日正午を期し全戰線の各部隊は蕭々たる秋雨をついて一氣に敵前渡河を開始した。

悲壯！秋雨衝いて蘇州河の敵前渡河（其ノ二）

（一）對岸の工場に據る頑敵はわが空軍の數度にわたる空爆にも容易に屈服せず、廢墟と化した工場のコンクリート壁に銃眼をあけて抵抗、加ふるに連日の霖雨は塹壕を陣地とする皇軍を少からず苦しめた。寫眞は渡河寸前、兩軍對峙、暴風の前の無氣味な靜寂。（對頁）

（二）渡河は開始された。見よ！假橋を小走りに渡る決死隊の忠烈な姿を。夕立の如く降りそゝぐ敵機銃彈をくゞつて一人、二人。壯絶！かくして蘇州河敵前渡河戰の幕は切つて落された。

壯絕！南市頑敵殲滅戰・決死の敵前渡河（其ノ一）

十月下旬蘇州河の線を突破してからの皇軍は眞に疾風迅雷、雪崩を打つて壞走する敵大軍を急追して敵が最後の線とたのむ嘉定、太倉の線に進出したが、一部南市に據る殘敵は袋の鼠となつて今は遁れられぬ運命を知つてか、小癪にもわれに反撃し來れるをもつてこゝに殲滅戰を展開、忠勇無双のわが兵は對岸より雨と降りそゝぐ敵チエッコ機關銃もものかは强行また强行、遂にクリークを突破、殘敵を完[illegible]して大上海はこゝに完全に皇軍の手中に確保された。（二宮特派員撮影）

壮絶！南市頑敵殲滅戦・決死の敵前渡河（其ノ二）

（一）急霰の如く降りそゝぐ敵機銃弾を縫つてクリークへ突撃するわが兵。（對頁）
（二）煙幕の掩護下クリークに架けられた假橋を渡る決死隊。

無錫總攻撃決死！敵前塹壕作業（其ノ一）

崑山、常熟を陥れた神速無敵の皇軍は次で蘇州を、更に無錫へと息つく間もなく敵を急撃したが、無錫は首都南京防衛上最後の要地だけに敵もまた死物狂ひに抵抗、本社渡邊特派員もこの一戦に從軍して報道戰士としての名譽の戰死を遂げるなど激戰を極めた。寫眞は佐々木特派員決死撮影にかゝるもの。

（一）敵前五十餘米、敵機銃猛射のなかを挺身、地にひれ伏して前進塹壕を掘る工兵隊の悲壯な姿。

無錫總攻擊決死！敵前塹壕作業（其ノ二）

（二）敵機關銃猛射のなかをヂリ〳〵と地に身を伏して肉迫するわが兵。

神技！傷ける海の荒鷲片翼で六百キロを翔破（其ノ一）

十二月九日わが海の荒鷲によつて敢行された南昌空爆行は輝かしい幾多の戰果を收めたが、なかにも少年航空兵出身の樫村三空曹はむらがる敵戰鬪機に機銃火の雨をあびせて撃墜、更に小癪にも反撃し來たれる敵機に向ひ敢然愛機をもつて體當りを喰はせ、黒煙のうちに敵機を墜落せしめたが無念!!　この戰鬪で愛機の左翼を折り、機は安定を失つてあはや墜落せんとしたにもかゝわらず巧みに愛機を操縦、見事六百キロを距てた○○基地に無事歸還した。けだし世界空中戰史上空前の神技、忠勇義烈のわが軍によてのみはじめてなし得た超人間的放れ業であると同時に航空日本の眞價を遺憾なく發揮したものであらう。

神技！傷ける海の荒鷲片翼で六百キロを翔破（其ノ二）

（一）見よ！　海の荒鷲樫村機の雄々しいこの姿を。わが社カメラによつてのみ撮影されたこの寫眞こそはいまだかつて見ざる貴重な然も稀有な航空寫眞として一度本紙に報道されるや俄然陸海軍關係當局は勿論、各方面から絶讃を博し傳統讀賣の寫眞の聲價を謳はれたのである。（對頁）

（二）片翼を失つた機を安全に着陸させることは正に神業である。○○基地にたどりついた樫村機は着陸しやうと速度を緩めると機はその都度著しく傾斜して果さず一度二度三度……樫村機を案じて飛行場につめかけた人々はハラ／＼と手に汗を握るうちに六度目敢然機首を下げたかと思ふと神業に等しい妙技で無事着陸に成功したのであつた。

炸烈する敵彈を縫つて南京上空決死の撮影飛行（其ノ一）

南京城壁がグルリと皇軍に包圍されてしまつた去る十二月九日、わが海陸荒鷲軍は城內の頑敵にとゞめの空爆を敢行した。最後の足搔きに狂氣した敵は小癪にも一齊に高射砲門を開いてわれに反擊、炸烈する砲彈は右に左に彈煙濛々と天を蔽ふて壯烈を極めたが、本社宮川特派員は特に陸軍機に同乘を許されて敢然この空爆行に參加、敵彈急霰の如く身近に炸烈するなかを沈着よく荒鷲部隊の活躍をカメラに收めた。

炸烈する敵彈を縫つて南京上空決死の撮影飛行（其ノ二）

（一）わが荒鷲目がけて打出す敵高射砲彈は機の右に左に炸烈、その都度機は激浪に飜弄される小舟の如く大搖れするうちに沈勇機はグン〳〵敵首都南京へ。（對頁）

（二）一發また一發、機を離れた爆彈は狙ひ違はず敵軍事施設を粉碎してゆく。寫眞はわが正確なる空爆に燃え上る中華門附近。

悲壮！軍旗に訣別・南京城門爆破に向ふ決死隊（其ノ一）

南京城壁崩るゝか、われ倒れるか、南京攻略皇軍のトップを切つて城壁間近に迫つた脇坂部隊は敵彈雨飛のなかを敢然!! 一番乗りの意氣に燃えて光華門爆破に向つた。『どうか成功してくれ』『必ず爆破して參ります』決死の勇士、見送る戰友、やがて決死隊員は軍旗に最後の袂別をして命令一下城壁めがけて飛び出した。とき十二月十日夕闇迫る午後四時半。一分、二分、固唾をのむうちに轟然!! 眞白な火焰が城壁の一角を吹き上げた。おゝ光華門に穴が、大穴が……萬歳!! 夕闇をついてあがる感泣の萬歳!!

悲壮！軍旗に訣別・南京城門爆破に向ふ決死隊(其ノ二)

二宮特派員撮影

(一)城門爆破に向ふ決死隊員が出發を前に軍旗に袂別する歴史的情景。(對頁)

(二)決死隊員によつて城門が爆破されるや、今や遅しと待ち更けてゐた決死突撃隊は弦を離れた矢のやうに城門に肉迫、やがて城門の一角に感激の日章旗が落陽をうけて燦然と揚げられた。南京一番乗り感激の場面。

敵の退路を遮斷・決死工兵隊の鐵道爆破（其ノ一）

九月十七日わが坂西、石黒兩部隊は十餘萬に達する敵大軍の退路を遏ち、決定的大殲滅戰を敢行すべく戰車をもつて敵陣の中央を突破、敵後方の鐵道線路を完膚なきまでに爆破、退路遮斷に成功した。この決死戰車隊に特に同乘を許された中尾特派員は勇躍參加、決死工兵隊の爆破作業をつぶさに撮影することが出來た。

（一）地雷はかゝつた、轟然一發！　天にとゞろく爆音とゝもに敵後方の鐵道線路は木ツ葉微塵に吹き飛んだ。

敵の退路を遮斷・決死工兵隊の鐵道爆破（其ノ二）

（二）わが步哨の警備下爆破作業は着々進み、かくして敵の退路は完全に遮斷され十數萬の敵大軍は逃場を失つて袋の鼠と化し決死戰車隊の使命は果されたのである。

軍旗を捧げて勇躍南拒馬河を渡る（其ノ一）

九月下旬といへば内地ではまだ初秋の候であるが、北支長城線に近く源を發する南拒馬河の水は朔北の風を受けて膚を刺し、わが軍の進撃を阻んだが、不屈不撓、意氣昇天のわが兵は胸つく濁流を冒して勇躍渡河を敢行、更に對岸の敵軍を撃破して進軍をつゞけた。中尾特派員撮影。（一）騎上軍旗を捧げて粛々拒馬河を渡渉するわが軍。

軍旗を捧げて勇躍南馬拒河を渡る（其ノ二）

（二）左方活動寫眞器を右手高くさし上げて胸つく濁流を渡渉するはわが社樋口映畫部員。一歩足を誤らんか、決死撮影の映畫フイルムは濁流にひたつてしまふ。頭上高く銃器を捧げて渡する兵達の辛苦もさることながらニユース映畫班の勞苦も並大抵ではない。かくしてこそわが社ニユース映畫は斷然各社を壓し絶讃を受くる所以である。

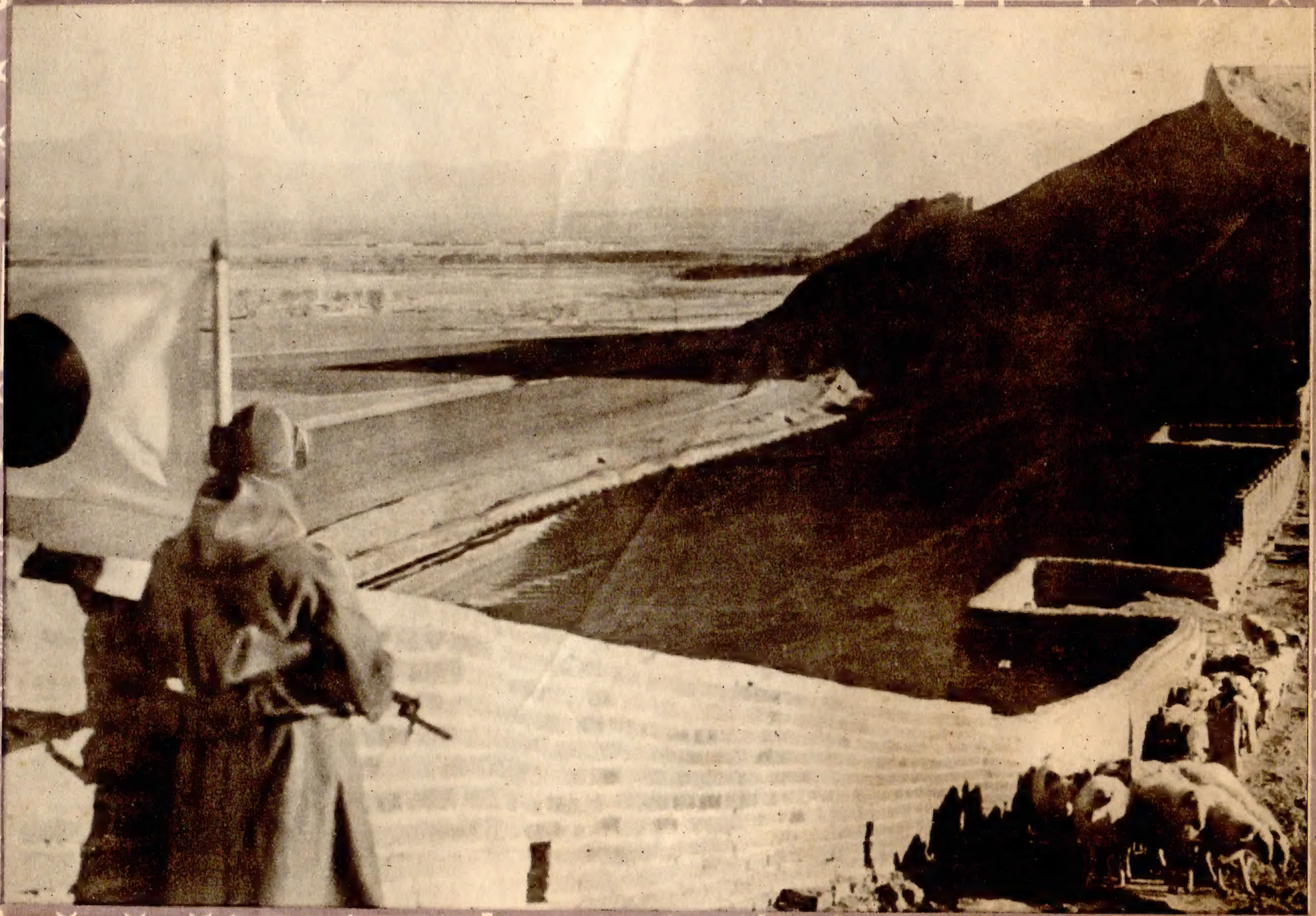
壯絕！杭州灣敵前上陸

海軍省十一月六日正午發表＝支那方面艦隊司令長官指揮兵力の一部は第〇艦隊司令長官指揮の下に極めて隱密裡に陸軍輸送船團を護衛し昨十一月五日未明前杭州灣に入り、暗夜に加ふるに折柄襲來せる濃霧を冒し、而も潮流强き海上において杭州灣北岸に對する陸軍部隊上陸を全力をあげて掩護し、見事な成果をもつて所期の目的を達成せり。（寫眞は堂々たる同艦隊の偉容）

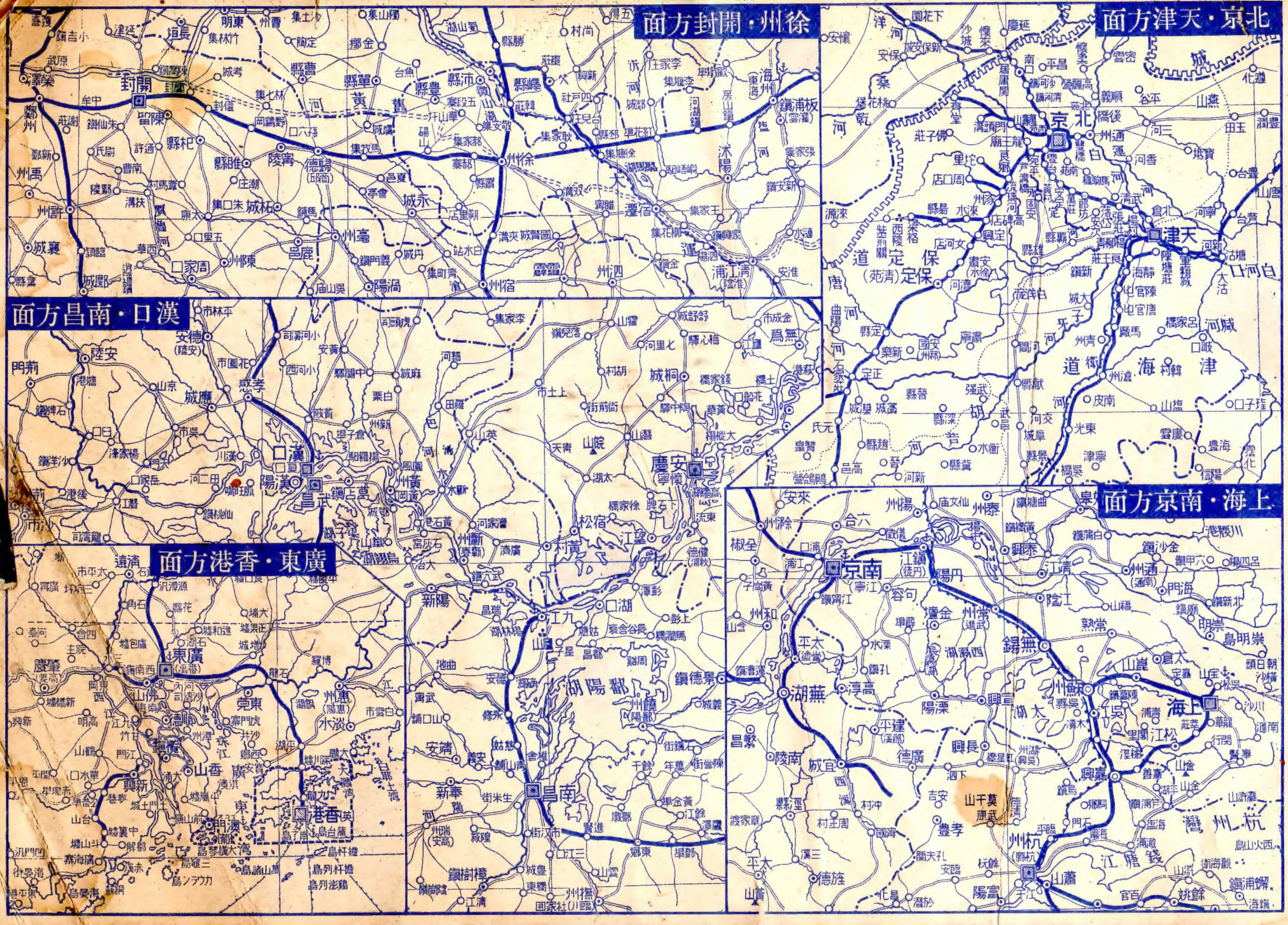
齊河一番乘り・安永部隊決死の突撃

津浦線に沿ふて長驅、敵大軍を撃迫して南下のわが軍は十一月中旬早くも大黄河畔に達し、齊河城を陥れて對岸の濟南に迫つたが齊河城は黄河の線を死守する敵軍にとつてはいはゞ背水の陣的要地だけに頑強な抵抗をなしたにかゝわらず、意氣軒昂向ふところ敵なき皇軍は折から降りしきる飛雪をついて勇躍、突撃また突撃、同月廿二日遂に齊河城を抜いて敵を大黄河の對岸に撃退した。中尾特派員撮影

皇威洽し！長城に平和の春來る



こゝは察哈爾省懐來。半年前のあの激戰はいまや跡方もなく消えて、過去數世紀にわたる苛政の鐵鎖から解放された民草は洽き皇威に浴して平和の春は來る。天皇陛下萬歳!! 日本軍萬歳!! 皇威洽し北支明朗調。尾崎特派員撮影


北京・天津方面
徐州・開封方面
漢口・南昌方面
廣東・香港方面
上海・南京方面
北京
天津
保定
開封
徐州
漢口
武昌
南昌
安慶
南京
上海
杭州
廣東
香港